

日本学術会議 公開シンポジウム開催案内と調査協力依頼

1. 「コロナ禍における社会福祉の課題と近未来への展望 ～直面する危機から考える～」

【主催】日本学術会議社会学委員会社会福祉学分科会

【共催】日本社会福祉系学会連合

【日時】2021年6月27日（日）13時00分～16時30分

【場所】オンライン

【参加費】無料

【定員】1,000人

【事前申込み】要

<http://bit.ly/june27seminar>（申込締切 2021年6月25日24時）

【開催趣旨】

コロナ禍において、社会福祉の実践現場は様々な課題に直面している。感染拡大にとともなう生活困窮（問題）の拡大や福祉サービスの利用制限、地域活動の自粛、感染拡大の予防とサービス提供の両立を求められる福祉施設の運営、地域での感染者等への差別や排除、外国人や若者など既存の制度で対応できない人々への支援課題など、この間、様々な事象が表面化し、現場において試行錯誤の取り組みがなされてきた。こうした取り組みは、新型コロナウイルスの感染拡大で生じた課題への対応としてだけでなく、これまで社会保障や社会福祉が抱えていた潜在的な課題、あるいは今後検討していかなければならないテーマの重要性を示唆するものである。

今回のシンポジウムでは コロナ禍で顕在化した社会福祉課題を確認し、コロナ禍のみならず、コロナが収束した後（アフターコロナ、ビヨンドコロナ）にむけて、必要な対応について検討する。そのために、第1部では、福祉現場からコロナ禍で顕在化した課題について報告していただき、そのうえで、第2部では制度、政策、実践の基盤となる社会福祉学の観点から、社会福祉の近未来について展望する。

【プログラム】

<http://www.scj.go.jp/ja/event/2021/311-s-0627.html>

【問い合わせ先】

日本社会福祉系学会連合事務局

メールアドレス：jaswas.official(a)gmail.com

※(a)を@にしてお送りください。

2. OECD 国際科学調査（ISSA2021）ご協力のお願い

我が国もメンバー国となっている国際機関である OECD（経済協力開発機構）では、現

在、世界中の科学者を対象として、ISSA2021（国際科学調査 2021 年）をウェブにより実施しています。今回の調査では、科学者の勤務事情、社会・経済との関わり、今般の COVID-19 危機による勤務及びキャリアへの影響といった事柄に焦点が置かれています。

今回の調査は、科学者の方であれば自由に回答に参加することができるようになっています。

ついでには、国内の科学者の皆さまに、この調査に関する情報について拡散いただき、よろしければ回答にご参加いただきたくご案内申し上げます。なお、我が国の科学者の状況を国際的に比較可能な形で把握できることは、今後の科学技術・イノベーション政策等の推進において有益であり、ひいては科学者全般にとっての研究環境の向上に資するものとなることも期待されますので、この調査に関して情報提供をさせていただく次第です。

【ISSA2021 回答 URL】

<http://oe.cd/issa2021en>

- ・上記の英語ページのほか、日本語版含め複数の言語によるページが提供されています。サイト右上の「言語」から選択できます。
- ・個人情報の取扱等についても、上記サイトにてご確認ください。

【ISSA2021 についての問い合わせ先】

OECD 事務局 iSSA2021 担当者

メールアドレス：issa(a)oe.cd.org

※(a)を@にしてお送りください。

【参考情報】

ISSA の概要や過去 2 回の調査 (ISSA2015、ISSA2018) から得られた結果等については、次のサイトで紹介されています：

<http://oe.cd/issa>

(又は <https://www.oecd.org/sti/survey-of-scientific-authors.htm>)

【本ご案内に関する問い合わせ先】

文部科学省科学技術・学術政策局企画評価課（担当：川口、中込）

メールアドレス：chousei(a)mext.go.jp

※(a)を@にしてお送りください。

メール件名は「ISSA2021 問い合わせ」としてください。